

台風19号による土砂災害から学んだ事

令和元年10月12日

社会福祉法人 寿康会

養護老人ホーム・特別養護老人ホーム平成の杜



法人・施設の概要

法人本部

静岡県駿東郡小山町上野

- 1 徳風園
- 2 平成の杜
- 3 みらい保育園（御殿場）
- 4 ライラックの園（静岡）

平成の杜の概要

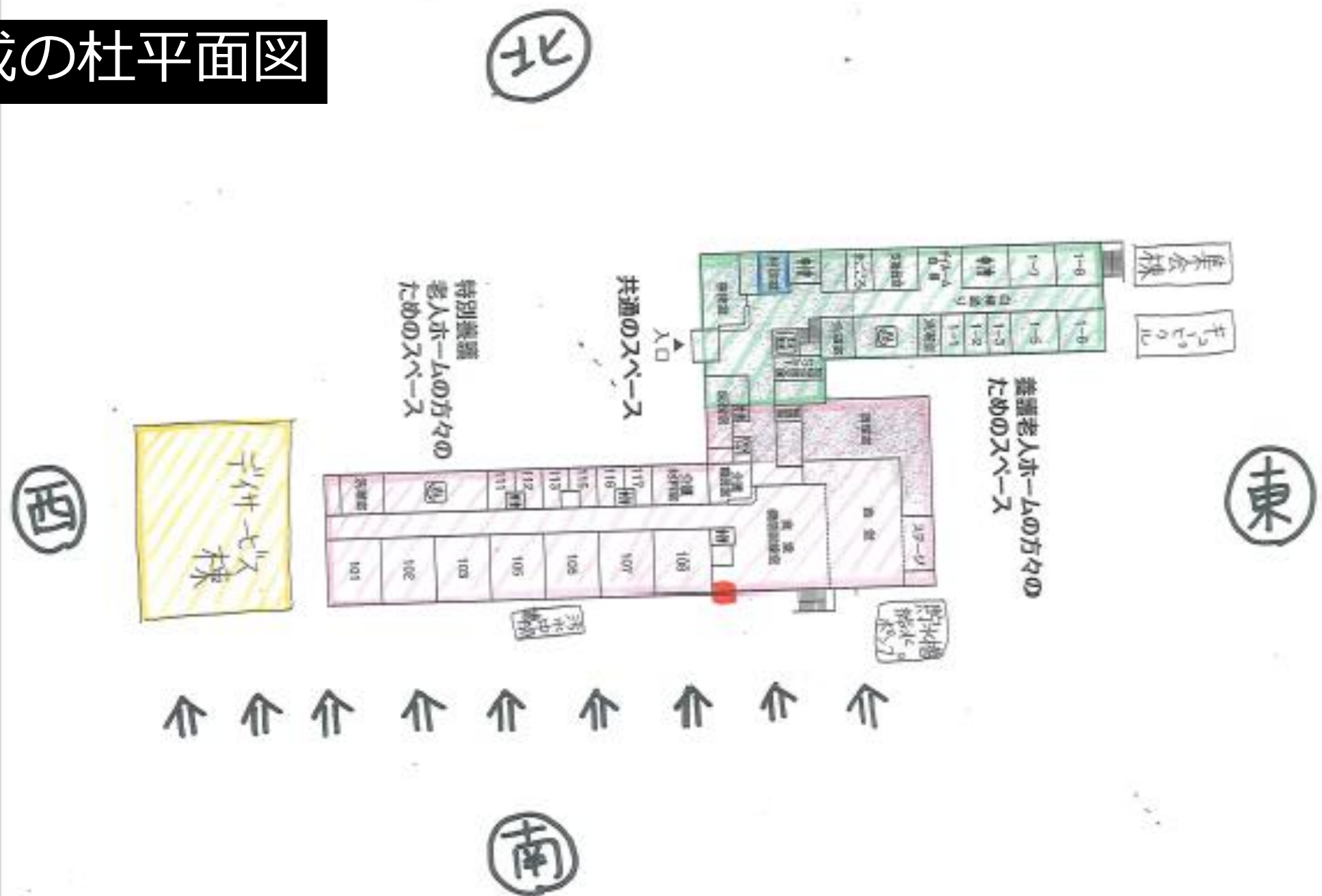
- 1 養護老人ホーム 定員50名 ショート2名
(10月12日は34名)
- 2 特別養護老人ホーム 定員29名 ショート5名
(10月12日は34名)
- 3 デイサービスセンター
- 4 地域包括支援センター

全職員数 58名
(10月12日は9名)

平成の杜周辺図



平成の杜平面図



10月12日(土) 観測史上最大の雨量 680ミリ

- 10時30分 避難勧告が出る。
養護老人ホーム1階の皆さんは2階へ避難
- 16時00分 トイレがあふれ浄化槽の警報が鳴る
- 19時00分 職員9名体制。自動ドアの隙間からじわじわ雨が
入ってくる。
- 19時20分 ご近所の方が裏の水路があふれたと教えてくれる。
- 19時30分 カーテンの外を見ると掃き出し窓の外は腰の高さまで
水がきていた。
- 19時34分 2階へ特養エリアの方34名避難開始



10月12日（土）被災当日

- 20時05分 ご利用者全員の方が食堂から出たとき、ガラス1枚が割れて職員が「逃げて！」と叫び、他の職員は走って逃げて食堂の扉を閉めた。
- 20時10分 ご利用者全員の方が2階へ避難したと同時にエレベーターが停止。その前からエレベーターの機械室に水が入らないよう水をせき止めながらの避難。その後、薬やおやつ、水分、保険証や通帳、印鑑など必要なものを取りに職員は1階へ。
- 20時25分 消防と消防団到着。









1 0 月 1 2 日（土）被災当日

- 2 0 時 2 5 分 消防団と一緒にご近所の住民 5 名と犬 1 匹も施設へ避難してきた。
- 2 1 時 3 0 分 寝る場所を作り、全員休んでもらう。2 階は 4 1 名分のスペースの所、職員や近隣住民を含め倍の 8 2 名で一晩を過ごすことになる。水は出ない。排水もできないため、トイレは使えない。警察官が人数確認に来る。
- 2 2 時 3 0 分 施設長到着。停電にはなっていない。高圧キューピクル故障のブザーが 1 階で鳴り響いていたが停止できず。外は雨は止んだが、道路が泥水の川となりゴーゴーと音をたてて流れている。土砂の入った食堂を境に食堂から特養エリアは 6 0 センチの泥水が溜まっている。食堂から養護側は 2 0 センチの泥水が溜まり、施設 1 階は全て浸水。



10月13日（日） 8時 特養の方の受け入れ先を探して下さい

静岡県老人福祉施設協議会東部支部の奥津支部長
事務局の社会福祉法人 信愛会さん

東部支部の会員施設の皆様、10施設が手を挙げて下さり、
受け入れていただきたい27名より、多く34名の受け入れ先がある
という連絡をいただく。

- | | |
|------------|------------|
| ・ 十字の園 9名 | ・ 白雪 3名 |
| ・ すずらん 1名 | ・ 菜の花の丘 2名 |
| ・ おやまの杜 3名 | ・ 徳風園 3名 |
| ・ あすなろ 4名 | |

10月13日（日）午前中

決断を迫られる次々のこと

- ・ 特養の方の受け入れ先の調整
- ・ ボランティアさんの受け入れ
- ・ トイレの使い方の問題
- ・ ごみの問題
- ・ 衛生に関する問題（水が出ない、トイレが使えない）
- ・ 駐車スペースの問題
- ・ エレベーターの復旧
- ・ パソコン・FAX・メールが使えない状態
- ・ マスコミの対応・・・



写真





























写真



写真



まとめ

25日（被災から約2週間後）から、特養ご利用者が施設へ戻り、
26日（土）27（日）で災害ボランティアの受入れ打切り。

災害から学んだこと

- ・日頃から防災備品の保管場所、扱い方などを全職員が知っている事が大事。
- ・温暖化や南海トラフなど、大きな災害を想定したマニュアルになっているか見直し、周知、訓練。（想定外の事が必ず起こる？）
- ・日頃から近隣施設など横のつながりを大切にする事。また、ご近所の皆さん、地域の社会福祉協議会とも連携を密にすることがとても大切です。日頃より施設を知ってもらい、訓練を見てもらう、など。
- ・災害後の生活を体験して思うことは、職員間の連携が最も必要。34

- ・ポジティブシンキングが大事！（命さえ助かればなんとかなる！必ず復旧できる！）
- ・マニュアルやその周知、訓練はとても大事で、まず必要。しかし、実際の災害時に様々な事をどうするかは、マニュアル通りにはいかない。

施設の全職員、介護も看護も調理も相談員も施設長も、全員が意見を言える風通しの良さが大事。

そのためには、施設長はじめ全職員は何があっても笑顔でいることを心がけています。

ご清聴ありがとうございました。